

HI-A1 II/A2 II/A3 II/A4 II 電話機

〔技術基準適合品〕

このたびはお買い求めいただき、ありがとうございました。

取扱説明書をお読みいただき、お使いください。

この「説明書」には、操作方法とあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本商品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を記載しています。

よくお読みの上、内容を理解してからお使いください。お読みになった後も、本商品のそばなどいつもお手元においてお使いください。



図はHI-A4 II 電話機です。

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規則並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取り下さい。

F-5786-1
920146A1

仕

様

回線種別	PB / DP (20PPS) 切替式
直流抵抗	約285 Ω
質量	約0.7 kg
寸法	幅 150mm × 高さ 81mm × 奥行 234mm
使用電源	<ul style="list-style-type: none"> 局/PBX リチウム電池 (型名: CR 2450) ※ ※ A 4 II のみ内蔵

工事される方へ

- 電話機の底面にある“PB”“DP”切替スイッチで、回線種別を替えることができます。(出荷時はPBに設定してあります。)
- 電話回線に初めて接続した時は内部回路を安定させる為に必ず受話器を一度上げてランプの点灯を確認してください。
- A 4 II 電話機はメモリバックアップ用リチウム電池を内蔵しています。リチウム電池は消耗品ですが、通常、交換の必要はありません。しかし回線に未接続 (未給電) の場合、電池の寿命を縮める要因となります。
- ボタン電話回線に誤接続すると、電話機が故障する場合があります。

特

長

○：機能有り
－：機能無し

No	機能名	機能説明	機種名			
			A1 II	A2 II	A3 II	A4 II
1	ダイヤル	ダイヤルはプッシュ式で回転ダイヤル回線、プッシュホン回線のいずれにも使用できます。	○	○	○	○
2	オンフック機能	受話器を置いたままダイヤルできます。	－	－	○	○
3	保留機能	お話し中に保留ボタンを押すと、相手の方に保留音が流れて本電話機のスピーカからも保留音が聞こえます。	－	－	○	○
4	再ダイヤル機能	相手が通話中などで再ダイヤルしたい場合は、再ダイヤル/ポーズボタンを押すだけで再びダイヤルができます。	－	－	○	○
5	オートダイヤル機能	登録しておいた相手の方の電話番号を1タッチで自動的にダイヤルすることができます。	－	－	－	○
6	短縮ダイヤル機能	登録しておいた相手の方の電話番号を2タッチで自動的にダイヤルすることができます。	－	－	－	○
7	フッキング機能	フッキングで転送できるPBX内線に使用する場合、転送が容易です。	－	○	○	○
8	シグナルチェンジ機能	回転ダイヤル回線でも、プッシュ信号による各種サービスが受けられます。	○	○	○	○
9	ポーズ機能	PBX内線に使用する場合、外線や専用線に発信する場合、約3.6秒のポーズを挿入することができます。	－	－	○	○
10	呼出音	軽やかな電子音で4種類の音色、かつ4段階の音量に切り替えられます。	○	○	○	○
11	受話増幅	受話器からの音量を増幅することができます。	○	○	○	○
12	ランプ表示	着信時にランプが点滅、並びに通話時にランプが点灯します。	○	○	○	○
13	卓上型/壁掛け型	電話機用壁掛け用品H 1-1・3WMP (別売) を取り付けると壁掛け型でもご利用できます。	○	○	○	○

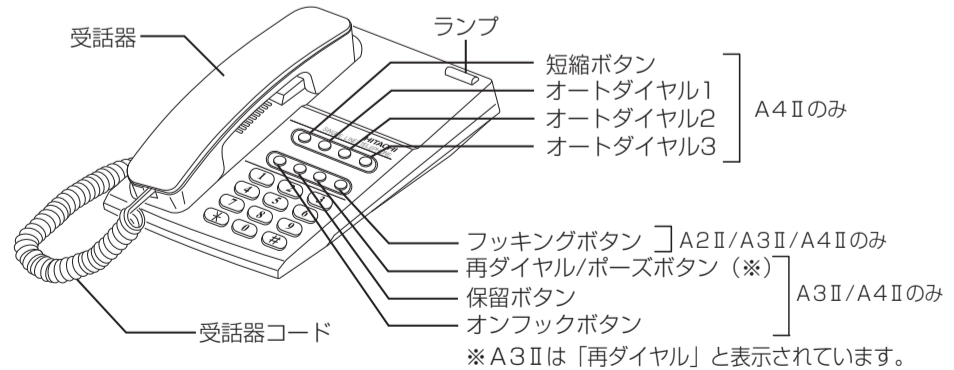
各

部

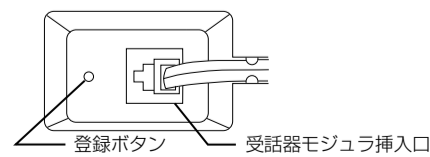
の

名

称

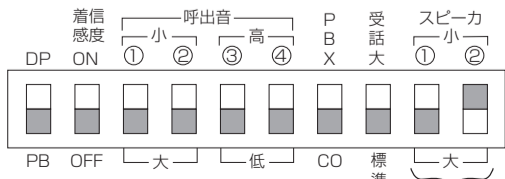


電話機底面の登録ボタンの位置 (A4 IIのみ)



登録ボタンはボールペン等の先の細いもので“カチッ”と音がするまで軽く押し、0.5秒以上押し続けてください。電話機本体より「ピッ」という登録モード移行確認音が鳴ります。

電話機底面のディップスイッチの位置及び設定



スピーカ音量の切替スイッチはA3 II/A4 IIのみでA1 II/A2 IIは空きとなります。

安全にお使いいただくために必ずお守りください



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

電話機の異常状態にお気づきのときは、すぐに電話機コードを抜き、販売店に修理をご依頼ください。

- 電話機に水が入ったり、ぬらさぬようご注意ください。火災・感電の原因となります。
- 電話機の上やそばに花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。
- 電話機を調理台やふろ場や加湿器のそばなど油飛びや湯気が当たるような場所、湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 電話機を絶対に分解・改造しないでください。火災・感電の原因となります。
- 煙の発生、異臭がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 落下等で破損したままで使用しないでください。火災・感電の原因となります。



注意

誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

- 電話機を壁掛用に取り付ける場合は、電話機の重みにより落下しないよう堅固に取り付け、設置してください。落下してけがの原因となることがあります。
- 電話機をぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。また、電話機の上に重いものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。
- 電話機を熱器具に近づけないでください。電話機コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 電話機を直射日光の当たるところや、暖房設備・ポイラーなどのためにいちじるしく温度が上昇するところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。

おねがい

誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止をまねく内容を示しています。

- 電話機は、次のような場所への設置は避けてください。故障・誤動作の原因となります。
 - ちり・ほこり・鉄粉・有毒ガスなどが発生する場所。
 - 製氷倉庫など、特に温度が下がる場所。
 - テレビ・ラジオ・電気こたつ・蛍光灯・アンプ・スピーカボックス・電子レンジ・電気カーペットの上や、家庭電化製品のそばなどで磁気を帯びている場所や電磁波が発生している場所及び高周波ウェルダや電気溶接機の近く。やむをえず設置する場合は、最低2m以上離してください。
 - 衝撃・振動のある場所。
- 机や椅子で電話機コードを踏みつけたりすると電話機が使えなくなるなどの障害が発生するので、機の移動などには十分注意してください。万一、障害が発生した場合は販売店までご連絡ください。
- 硫化水素の発生する場所 (温泉地など) や塩分の多いところ (海岸など) でお使いのときは、電話機の寿命が短くなる場合があります。
- 電話機を落としたり、強い衝撃及び振動を与えないでください。故障・誤動作の原因となります。
- 道路に近くてCB無線が混入する場合、または放送局のアンテナに近くて雑音が混入する場合は、販売店にご相談ください。
- 電話機をベンジン・シンナー・アルコール・石油・熱湯などで絶対にふかないでください。変色や故障の原因となります。布等でからぶきしてください。

使用上の注意

- 共同電話・公衆電話にはご使用になれません。
- ダイヤルしたとき、ブランチ接続した他の電話機のベル音が鳴ることがありますが、故障ではありません。
- 受話器コードは、電話機底面にあるコード溝に通してご使用ください。
- 通話しないときは、受話器のコードが手前から出るように確実に置いてください。かけ忘れたり、受話器のコードを逆の方向に置いたり、受話器の下にコードや物がはさまっていると、通話料金が加算されたり、着信があってもベルが鳴らず、他の通話のさまたげとなることがあります。
- 本電話機と他の電話機とでブランチ通話のときは、電話機の種類や電話局からの距離によって通話ができなくなることがあります。その際は片方の受話器をおろしてください。通話ができるようになります。
- 受話器の送話口マイクロホンは口の正面にくるように持ってご使用ください。

- A3Ⅱ電話機本体には、「再ダイヤル/ポーズ」ボタンが「再ダイヤル」と表示されていますが、ポーズ機能もご使用いただけます。

電話をかけるとき

- 受話器をとり“ツー”という発信音を聞いてから、相手の方の電話番号をダイヤルします。
- 相手が出たら、お話しください。

シグナルチェンジのしかた

電話機底面にある“PB”“DP”切替スイッチが“DP”側にある時に“*”ボタンを押すと、回転ダイヤル信号からプッシュ信号に変わりますので、銀行の残高照会などのプッシュ信号による各種サービスが受けられて便利です。

受話器を置くと自動的に回転ダイヤル信号にもどります。
(プッシュ回線をお使いのときは、上記操作は不要です。)

再ダイヤルで電話をかけるとき(A3Ⅱ/A4Ⅱのみ)

- 受話器をとり“ツー”という発信音を聞いてから、再ダイヤル/ポーズボタンを押します。
 - 相手が出たら、お話しください。
- 再ダイヤルできる桁数は32桁です。(33桁以降切り捨て)
 - ダイヤル後に続けて再ダイヤル/ポーズボタンを押すと“ポーズ”となりますが、フッキングボタン押下後に続けて再ダイヤル/ポーズボタンを押すと“再ダイヤル”となります。

【再ダイヤルに登録されるもの】

回線種別“PB” : 0～9、ポーズ、*、#、短縮ダイヤル、オートダイヤル
回線種別“DP” : 0～9、ポーズ、* (シグナルチェンジ)、短縮ダイヤル、オートダイヤル

【ご注意】

- A4Ⅱ電話機はリチウム電池を内蔵しているため、再ダイヤルメモリはずっと保存されます。
- A3Ⅱ電話機はリチウム電池を内蔵しておらず、回線に接続していないと、数分で再ダイヤルメモリは消えます。
- ブランチ接続している一方の電話機が通話中に、A3Ⅱ電話機を受話器の上げると、再ダイヤルメモリが消えてしまうことがあります。

ポーズの使いかた(A3Ⅱ/A4Ⅱのみ)

- 構内交換機の内線から外線や専用線に電話をかけるとき、外線アクセス番号(または専用線アクセス番号)を押した後に、再ダイヤル/ポーズボタンを押すと約3.6秒のポーズが入ります。

電話がかかってきたとき

外から電話がかかってくると“ルルル……”という呼出音が聞こえます。受話器をとってお話しください。

呼出音量をかえたいとき

電話機の底面にある呼出音①②スイッチで4段階の音量に替えることができます。

音量	大 ← → 小			
音量差	約8dB		約6dB	約3dB
スイッチの位置				

呼出音色をかえたいとき

電話機の底面にある呼出音③④スイッチで4種類の音色に替えることができます。

音色	低 ← → 高			
スイッチの位置				

受話音量をかえたいとき

電話機の底面にある“受話大”“標準”切替スイッチで受話器の受話音量を2段階に替えることができます。

保留して相手の方に待っていただくには(A3Ⅱ/A4Ⅱのみ)

- 通話中に保留ボタンを押し、受話器を置きます。
- 相手の方に保留音の流れ、本電話機のスピーカからも聞こえます。
- 受話器を取ると保留音が止まり、お話しできます。
 - ①で受話器を置かない場合は、再度保留ボタンを押すとお話しできます。
 - ブランチ接続の時は、①の後にブランチ電話機を受話器を取ると、本電話機の保留が自動的に解除されます。(自動保留解除機能)

オートダイヤルの登録のしかた(A4Ⅱのみ)

- 受話器を置いたまま、電話機底面の登録ボタンを0.5秒以上長押しします。「ピッ」という登録モード移行確認音が鳴ります。
- 相手の方の電話番号をダイヤルします。(32桁まで)
- 登録したいオートダイヤルボタンを押します。「ピー」という登録完了音が鳴ります。(オートダイヤル1～3の3ヶ所に登録できます)
- 登録完了です。

オートダイヤルで電話をかけるとき(A4Ⅱのみ)

- 受話器をとり“ツー”という発信音を聞いてから、登録しておいたオートダイヤルボタン(1～3)を押します。
- 相手が出たら、お話しください。

短縮ダイヤルの登録のしかた(A4Ⅱのみ)

- 受話器を置いたまま、電話機底面の登録ボタンを0.5秒以上長押しします。「ピッ」という登録モード移行確認音が鳴ります。
- 相手の方の電話番号をダイヤルします。(32桁まで)
- 短縮ボタンを押します。
- 登録したい短縮番号(0～9)をダイヤルボタンより押します。「ピー」という登録完了音が鳴ります。(短縮番号0～9の10ヶ所に登録できます)
- 登録完了です。

短縮ダイヤルで電話をかけるとき(A4Ⅱのみ)

- 受話器をとり、“ツー”という発信音を聞いてから短縮ボタンを押します。
- 登録しておいた短縮番号(0～9)をダイヤルボタンにより押します。
- 相手が出たら、お話しください。

【ご注意】

オートダイヤル、短縮ダイヤル登録時の注意点

- 登録作業は必ず回線に接続した状態で行ってください。回線に接続し、通電させ回路を安定させてからでないと、登録ボタンが効かないことがあります。
- 登録中に間違えたときは、受話器をいったん上げ、再び下ろしてから、再度、上記操作を行ってください。
- 連続して登録する場合にはA①～A③を繰り返してください。(短縮はB①～B④の繰り返し)
- 一度登録した番号を変更したいときは、再度、登録操作を行ってください。前の番号が消え、新しい番号が登録されます。
- 登録データを消去したいときは、A②の操作を省略してください。(短縮はB②を省略)
- オートダイヤル、短縮ダイヤルに登録できるダイヤル桁数は最大32桁です。33桁以上押した場合は「ピピピピッ」とエラー音が電話機本体より鳴ります。
- 登録ボタンを押して約10秒間何もしないと、「ピピピピッ」とエラー音が電話機本体より鳴ります。登録を行う場合は再度A①より操作をしてください。(短縮はB①より)

【オートダイヤル、短縮ダイヤルに登録できるもの】

回線種別“PB” : 0～9、ポーズ、*、#
回線種別“DP” : 0～9、ポーズ、* (シグナルチェンジ)

オンフックボタンで電話をかけるとき(A3Ⅱ/A4Ⅱのみ)

- 受話器を置いたまま、オンフックボタンを押すと、ランプが点灯し、“ツー”という発信音がスピーカから聞こえます。
 - 相手の方の電話番号をダイヤルします。
再ダイヤル、オートダイヤル、短縮ダイヤルも使用できます。
 - 相手の方を呼んでいる呼出音がスピーカから聞こえます。
 - 相手の応答の音がスピーカから聞こえてきたら、受話器をとってお話しください。スピーカからの音声が切れ、お話しできます。
 - スピーカの音量は、電話機の底面にあるスピーカ音量切替スイッチで4段階に替えることができます。

音量	大 ← → 小			
音量差	約7dB	約3dB	約3dB	約3dB
スイッチの位置				
- 最大にすると回線によっては音が歪む場合があります。
- 回線によって、オンフックダイヤルできない場合があります。ゆっくり確実に押すことで、オンフックダイヤル可能となります。

【ご注意】

ブランチ接続時の注意点

- 本電話機と他の電話機がブランチで接続されている場合、スピーカ受話中に他の電話機を受話器を上げると、本電話機が切れてしまうことがあります。又、オンフックボタンでスピーカ受話にならないことがあります。
- ブランチ接続した一方の電話機が通話中にA4Ⅱ電話機を受話器を上げて通話したり、オンフックボタンを押してスピーカ受話にしますと、リチウム電池を消費してしまうことがあります。

共鳴り自己鳴りが発生した場合

回線の条件によって、ブランチ接続された電話機でダイヤルしたり、この電話機をダイヤルするとこの電話機のベルが鳴ることがあります。その際は、電話機の底面にある“着信感度”切替スイッチをONにしてください。

フッキングボタンの使いかた(A2Ⅱ/A3Ⅱ/A4Ⅱのみ)

フッキングボタンを押すと(押し続けている時間に関係なく)約600mSだけ回線を切断します。転送機能等をフッキングで行うPBXの内線電話機として使いますと、確実なフッキングができるので便利です。

側音の調節

構内交換機によっては、側音が大きくなる場合があります。その際は、電話機の底面にある“PBX”“CO(局線)”切替スイッチをPBX側に切り替えてお使いください。

(側音が小さくなります。)